

横浜市福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
末吉いづみ保育園

平成 27 年 10 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

～ 目 次 ～

実施概要	P 1
評価結果についての講評	P 2
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重	P 5
評価領域Ⅱ サービスの実施内容	P 8
評価領域Ⅲ 地域支援機能	P 11
評価領域Ⅳ 開かれた運営	P 12
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上	P 13
評価領域Ⅵ 経営管理	P 14
利用者家族アンケート分析	P 15
利用本人調査	P 19
事業者コメント	P 23



実施概要

事業所名	末吉いづみ保育園
報告書作成日	平成 27 年 10 月 15 日 (評価に要した期間 6 か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価	<p>【実施期間：平成 27 年 4 月 24 日～7 月 31 日】</p> <ul style="list-style-type: none">・職員会議にて、園長より趣旨の説明後、第三者評価機関より説明を受けた。その後、常勤・非常勤すべての職員、各個人が勤務時間内やそれぞれ個人の時間に記入した。・各個人が記入したものを元に、各乳児クラス会議・幼児会議で意見を交換しながら 1 項目ずつ確認し合った。それを持ち寄り、クラスリーダー会議（園長・主任・各リーダー会議）にて各クラスでまとめたものを、1 項目ずつ協議し合いまとめ、その後全体職員会議（非常勤は参加できる者のみ）にて 1 項目ずつ読み上げ、協議し合いまとめた。最後に正職員で内容を見直して確認し決定した。
2. 利用者家族アンケート調査	<p>【実施期間：平成 27 年 6 月 1 日～6 月 15 日】</p> <p>配付：全園児の保護者（162 世帯）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。</p>
3. 訪問実地調査	<p>【実施日：平成 27 年 9 月 15 日、9 月 17 日】</p> <p>■第 1 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：書類調査 事業者面接調査 園長、主任</p> <p>■第 2 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：職員ヒアリング 主任、リーダー保育士 3 名、栄養士、非常勤職員 1 名、看護師 1 名、 事業者面接調査 園長、主任</p>
4. 利用者本人調査	<p>【実施日：平成 27 年 9 月 15 日、9 月 17 日】</p> <p>①訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。 ②乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。</p>

評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

末吉いづみ保育園は、JR・京浜急行の鶴見駅からバスに乗り「末吉小学校前」で下車、3分ほど住宅街の中を歩いた所にあります。東に鶴見川、南に横浜市東部病院、北は下末吉公園に接していて、広々として解放感がある立地となっています。

園は平成18年(2006年)4月に社会福祉法人三條会によって設立されました。運営法人は広島市を中心として関西地区や関東地区で福祉施設を多数運営しています。保育園としては、他に広島市で3園、川崎市に保育園と事業所内保育園を1園ずつ、東村山市に1園を運営しています。

定員は200名(0~5歳児)で、平日・土曜ともに開園時間は7時~20時です。

鉄骨筋2階建ての園舎は、保育室が南に面していて明るく、北側には滑り台や砂場がある園庭があります。園庭に隣接して公園と公開空地があり、日常的に園庭の延長として用いています。

保育理念は「児童福祉法の理念に基づき、児童の最善の利益を考慮し、養護と教育の一体的な機能を果たしながら豊かな人間性を持った心身ともに健やかな児童を育成します」、保育方針は「保護者が安心して預けられるよう、子ども一人ひとりの個性を尊重し、明るい挨拶などの当たり前の事柄を丁寧に言い、笑顔と真心をもって保育にあたります」、保育目標は「健康で明るい子に育てます」「感謝と思いやりのある子に育てます」「創造性豊かな子どもに育てます」です。

1. 高く評価できる点

●子どもたちはのびのびと集団生活を楽しんでいます

保育士は見守りの姿勢を大切に保育にあたっています。乳児の時から少しずつ生活の流れを身につけていき、幼児になると自発的に自分のことは自分でやるように育てています。保育士は近くで見守って声を掛け、場合によっては手助けをしています。

遊びの時の子どもたちはとても元気で生き生きとしています。一人で黙々とブロックで作品を作ったり、数人でおままごとをしたり、グループでルール性のある遊びをしたりしています。観察時にも、ままごとで、食べ放題やデリバリーなど、子どもたちの生活経験を自由に遊びに取り入れる場面を見ることが出来ました。

園の隣は公園と広々とした公開空地になっていて、子どもたちは大勢で鬼ごっこをしたり、グループでばったを探したり、草と土でおままごとをしたりしてのびのびと遊んでいます。各年齢の人数が30名以上と多いですが、自分たちでルールを作ったり、グループ同士で譲り合ったりして遊んでいます。仲良しのグループはできてはいますが、グループ同士の交流もあり、遊びの内容に合わせた集団が構成されて、遊び込んでいます。また、異年齢の関わりも多く、年上の子どもが年下の子どもに声を掛けて遊びに誘ったり、けんかの仲裁をしたりする場面も見られます。

このように、様々な場面で集団での学びが活きていて、子どもたちはのびのびと園生活を楽しんでいます。

●内部研修が積極的に行われています

園では、全職員に対して目標記入シートを用い目標設定していて、保育士は積極的に外部研修に参加し、目標達成に向けて頑張っています。また、毎月、内部研修(キャンパス研修)を実施していて、非常勤職員も参加することが出来ます。内部研修の内容は、アレルギー対応や衛生管理、心肺蘇生術、不審者対応などの実務的なものから外部講師によるリトミック研修、インターネット講習など多岐な内容となっています。内部研修では、外部研修報告の時間も設け、研修の成果を職員間で共有できるようにしています。また、法人の経験や習熟度別、職種別の研修があり、必要な職員が参加しています。

保育士は研修で学んできたものを自由に取り入れ、保育の現場で活かしています。

●保護者との協力関係を築いています

園では保護者とのコミュニケーションをとり良好な関係を築くように努力しています。各保育室の前には意見箱を置き、保護者が自由に意見を入れられるようにしています。また、年1回顧客満足度調査を行い、職員の対応や子どもへの関わり、情報の提供などの項目ごとに保護者の意見を聞いています。

毎月の保護者役員会には、園長と保護者会担当職員が参加し、園の方針を説明し、保護者の意向を聞いています。保護者会主催の夏祭りやバザーや草むしり、茶話会などには、多くの保護者が参加しています。茶話会などには職員も参加し、保護者とのコミュニケーションを深める機会となっています。

2. 独自性のある点

●手話を介した地域との交流をしています

法人は障がい施設を運営していて、子どもたちが障がいへの理解を深められるよう、障がい者との交流をしています。2ヶ月に1回、地域の団体から聴覚障がいの方と手話通訳の方が来園し、5歳児が手話を教えてもらったりし、交流しています。また、地域の大学の手話サークルの学生が3、4か月に1回来園し、5歳児と交流しています。

生活発表会などの機会には、子どもたちが手話ソングを披露し、保護者が園の姿勢を理解できるようにしています。

3. さらなる改善が期待される点

●目指す方向性を園全体で共有することが期待されます

園では、保育理念や基本方針などを保育室に掲示するとともに年1回園長が説明する機会を設けています。ただし、常勤職員は入職時の法人研修で保育理念や基本方針の説明を受けていますが、非常勤職員や派遣保育士に対しては掲示やマニュアルでの自己確認のみで、あらためて説明する機会はありません。

また、指導計画は各クラスごとに作り、乳児は乳児会議、幼児は幼児会議でそれぞれ報告していますが、全体で共有することはしていません。

乳児と幼児の情報共有を図り園全体の問題について話し合う機会として、今年度から、乳児会議・幼児会議だけでなく、職員会議も実施することにしましたが、出席は常勤職員のみとなっています。

園が目指す保育を実践するためには、保育士自身がどのような思いで保育に取り組んでいるかについても話し合い、方向性を統一することも必要かと思われます。また、保育方針や保育課程、年間指導計画などの基本的な事柄については、非常勤職員を含む職員全体が理解することが必要です。園全体で方向性を共有するためのさらなる取り組みが期待されます。

●情報の流れなど園の取り組みを見直し、整理することが望まれます

園では、職員会議や朝の打ち合わせなどで情報共有を図っています。また、マニュアルを整備するなどの取り組みを行っています。

ただし、保育観察時においても情報の共有や伝達が上手く機能していないのではと思われる場面が散見されました。事務室と保育室が別棟になっている上に、クラスの子どもの人数が多く、他の保育室の様子が伝わりにくい構造上の問題があるからこそ、情報共有は大切です。共有すべき情報の内容や共有の方法などを整理することが期待されます。


クラス運営がクラスリーダーに任されていることもあり、衛生管理や子どもと関わる姿勢などにもクラスや保育士によりばらつきが見られますので、職員間で話し合いマニュアルの整理などを行うとともに、役割ごとの権限や責任を明確にするなどの体制の見直しをすることが期待されます。


また、自己評価や顧客満足度調査、けが記録の集計分析などの取り組みの結果を、皆で共有し、より良い保育園作りに活かすことが望まれます。


●個人情報についての仕組みを再度見直すことが望まれます

個人情報についてのガイドラインを設け、職員会議で個人情報の取り扱いや守秘義務について話し合っています。ただし、職員の退職時には守秘義務の誓約書に署名していますが、入職時に誓約書を求めることは行っていません。職員の意識向上のためにも入職時のオリエンテーションで説明し誓約書を取ることが望まれます。また、全ての個人情報を施錠できる場所で保管する必要がありますので、不十分な箇所は早急に見直すことが望まれます。


評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類 I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育理念は「児童福祉法の理念に基づき、児童の最善の利益を考慮し、養護と教育の一体的な機能を果たしながら豊かな人間性を持った心身ともに健やかな児童を育成します」、保育方針は「保護者が安心して預けられるよう、子ども一人ひとりの個性を尊重し、明るい挨拶と当たり前の事柄を丁寧に行い、笑顔と真心をもって保育にあたります」、具体的な保育目標として「健康で明るい子に育てます」「感謝と思いやりのある子に育てます」「創造性豊かな子に育てます」を掲げています。保育理念、保育方針、保育目標は利用者本人を尊重したものとなっています。 ・保育理念、保育方針を玄関や保育室などに掲示するとともに、園長が年1回全体職員会議で説明しています。また、キャンパス研修(園内研修)で唱和しています。保育園カリキュラム、入園のしおり、パンフレットなどにも掲載しています。ただし、非常勤職員や派遣職員に対しては掲示物などで周知を図ってはいますが、改めて説明したり、確認したりする機会を設けていません。また、職員間で理念や方針について話し合い、園が目指す方向性について共通理解を図る取り組みもなく、今後の課題となっています。 ・法人作成の原案を基に調整し、園としての保育課程を作成していますが、家庭の状況や地域の実態、周知の環境を考慮し保育課程に反映するまでには至っていません。 ・保護者に対しては、重要事項説明書に年齢ごとの発達の要点と保育のねらい、園の指導の概要を記載し、入園説明会や懇談会で説明しています。 ・保育課程に基づき、年齢ごとの年間指導計画、月案、週案をクラスごとに話し合い、作成しています。保育士は、子どもの態度や表情、言葉などから子どもの意見・要望を把握するように努め、子どもの関心があるものを、発表会の劇やダンスに取り入れるなどしています。 ・今年度から乳児会議・幼児会議だけでなく職員会議を行うようになりましたが、出席は常勤職員だけとなっていて、理念や方針、保育課程、指導計画などを非常勤職員を含む全職員で話し合うまでには至っていません。全職員が園の方向性を共有するためのさらなる取り組みが期待されます。 		


評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会後に保護者に面接しています。発達個人票、児童票、病気・予防接種チェックシート、新入園児面接シートに保護者に記入してもらい、入園までの成育歴や家庭での状況を把握しています。面接時に把握された情報は、乳児会議、幼児会議で共有しています。 ・入園前面接で保護者と相談し、子どもの様子を見ながら短縮保育(慣らし保育)を実施しています。0歳児の新入園児に対しては、個別に主に担当する保育士が決まっています。1歳児の新入園児に対しては、入園前説明会を担当した保育士が中心になって対応しています。在園児に対しては、3月末からは新しい保育室で過ごし、3歳児までは担任の一人は持ち上げるようにするなどの配慮をしています。 ・おもちゃなど子どもが心理的拠り所とする物の持ち込みは原則として行っていません。 ・子どもの発達や状況に応じて、クラスごとに話し合い、年間指導計画、月案、週日案を作成しています。トイレトレーニング、離乳食など個別の課題については、保護者の意向も反映しています。 		


評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果	
	A	

- ・保健衛生管理マニュアルに基づき、定期的に清掃しています。24 時間換気システムを稼働するとともに各保育室に空気清浄機を設置しています。また、温・湿度計、エアコン、扇風機を保育室に設置し、温・湿度の管理をしています。ただし、廊下などに物が多く置かれているなど、整理が不十分な部分があるので、さらなる整理整頓が期待されます。また、掲示物も古いものや重複するものが多く見られましたので、保護者の混乱を防ぐためにも、一目でわかるように整理することが望まれます。
- ・保育士は保育士の声などが騒音にならないよう心がけています。ただし、子どもの声が大きくなると保育士の声も大きくなったりする場面が観察時にも確認されましたので、さらなる取り組みが期待されます。
- ・沐浴および温水シャワーの設備があり、適切に管理され、清潔に保たれています。
- ・0歳児クラスは月齢で2つに分ける、0歳児の高月齢児と1歳児の低月齢児合同のクラスを作るなど、子どもの発達に合わせた活動ができるように工夫しています。低年齢児の保育室はロッカーや仕切り、敷物等を用い小集団保育が行われるようになっていきます。異年齢の交流の場としては、ホールやプレイルームがあります。乳児、幼児それぞれ縦割りクラスを編成し縦割りで活動する機会を設けています。

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果	
	A	


- ・0歳児～2歳児クラスは個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。乳児は毎月、クラスごとに話し合い、個別指導計画を見直しています。特別な課題がある幼児については、2ヶ月に一度見直しを行っていますが、子どもの状況に変化がある場合には毎月のクラス会議で話し合い、柔軟に対応しています。
- ・保育所児童保育要録を小学校に送付しています。
- ・入園時に、子どもや家庭の個別の状況・要望を保護者に児童票、病気、予防接種チェックシート等に記入してもらっています。入園後の子どもの様子は児童票、発達個人票に記入しています。子どもの記録は棚に保管し、必要な職員はいつでも見ることができます。

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮を要する子どもを受け入れる姿勢があります。 ・年1回のケース会議、乳児会議・幼児会議、リーダー会議などで個別のケースについて話し合っていて、記録もあります。特に配慮を要する子どもに関する記録は事務室の鍵のかかる棚に保管されていて、必要な職員はいつでも確認することが出来ます。 ・点字ブロックやエレベーターなどが設置されていて、園内はバリアフリー構造となっています。保護者の同意を得て、東部地域療育センターの相談・助言を受けるなど連携する体制ができています。2ヶ月ごとに障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成しています。また、個別の日記もつけています。個別指導計画に友だちとの関わりの項目を設け、障がいのある子どもも他の子どもと同じ活動ができるよう配慮しています。必要に応じてフリーの保育士が付くなどし、援助しています。 ・子どもたちが障がいへの理解を深められるよう、2ヶ月に1回、地域の団体から聴覚障がいの方と手話通訳の方が来園し、5歳児が手話を教えてもらったりし、交流しています。また、地域の大学の手話サークルの学生が3、4か月に1回来園し、5歳児と交流しています。 ・虐待の定義や目視基準、対応方法、保護者対応などが記載されたマニュアルがあり、全職員に周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、区役所や中央児童相談所等の関係機関と連携する体制ができています。 ・食物アレルギー疾患のある子どもに対しては、子どものかかりつけ医の指示書を提出してもらい、除去食を提供しています。アレルギー緊急時対応マニュアルがあり、職員に周知しています。また、エピペンの使用方法やアレルギー疾患についての内部研修を実施しています。提供にあたっては、アレルギーチェック表を用いて栄養士、看護師がチェックし、口頭で保育士に伝え、保育士同士で声を掛け合って確認しています。お代わりも別となっています。提供時には、名札のついた別トレーにのせ、テーブルに保育士がつき、誤食を防いでいます。 ・宗教による禁忌食に対応するなど、生活習慣や考え方の違いを認め尊重しています。保護者が理解できるよう、ゆっくり話す、手紙に書く、子どもに通訳してもらうなどの配慮をしています。今後、保護者のいずれもが意思疎通が困難な場合には、区役所に通訳ボランティアを紹介してもらう等して対応する予定です。ただし、文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう働きかける機会は設けていません。 		


評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・苦情解決責任者は園長、苦情受付担当者は主任で、苦情対応の流れを園内に掲示するとともに、入園のしおりに明記し、保護者に周知しています。第三者委員を設置し、氏名、連絡先を入園のしおりに明記しています。また、かながわ福祉サービス運営適正委員会を外部の権利擁護機関として紹介しています。 ・入口および各クラスに意見箱を置いています。年1回懇談会を実施し保護者の意見を聞いています。また、年1回顧客満足度調査を実施し、結果を保護者にフィードバックしています。保育士は、登降園時に保護者に声をかけ、保護者が意見を言いやすいように働きかけています。 ・苦情はリーダー会議や職員会議で報告し、改善について話し合っています。ただし、受け付けた要望や苦情の一部は子どもの個別の記録などに記載されていますが、まとめてデータ化するまでには至っていません。今後の園運営に活かすためにも、受け付けた要望や苦情は全て苦情記録としてまとめて記録し、データとして蓄積されることが望まれます。 		

評価領域Ⅱ サービスの実施内容


[遊び]

評価分類Ⅱ－1 保育内容 [遊び]	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> 年齢や発達に合ったおもちゃや絵本が用意されています。クラスだけでなく、ホールやプレイルームなどにおもちゃや遊具は保管されており、保育士間で相談の上、クラスで自由に使うことができます。 敷物でコーナーを作ったり、テーブルをつなげたり、牛乳パックで作ったままごと用の家具を使ったりして、子どもたちが落ち着いて遊べる環境が作ってあります。 子どもの自由な発想を受け止めていますが、まだ集団の活動につなげたり、発展させたり、というところまではいたっていません。 年齢に応じて、集団で遊ぶ楽しさを知らせ、遊びから友だち関係や社会ルールがわかるように留意しています。 一人一人がじっくり遊べるように、保育士が友だちとの仲立ちしたり、遊びをリードしたり配慮しています。 トマト・枝豆・ピーマン等夏野菜をプランターで栽培して収穫し、給食に出してもらったり、テラス側の畑ではサツマイモを植えたりしています。また、青虫を蝶にふ化させたり、カブトムシを飼ったり、虫眼鏡を持って公園の草やありなどを観察したりしています。 子ども同士のけんか等については、年齢に応じて、お互いの気持ちを受け止め、納得できるように仲立ちし、自分たちで解決できるようにしています。乳児は保育士が間に入って、気持ちを代弁しています。 子どもの年齢や発達に合わせて楽器を取り入れたり、制作を取り入れています。自由に表現できるような配慮が乏しいところがあります。制作物はどのクラスも使う色や形、折り方、貼り方などが、画一的で自由な表現にはなっていません。 幼児は週に1回集会を開き、歌や体操を一緒にしたり、月に1回は午前中の活動を縦割りでおこなったりしています。 乳児は運動会後から、月に1回手遊びを一緒にしたりする「ことりの会」を開きます。また、異年齢で散歩に行ったりしています。 お天気が良ければ積極的に野外活動に出かけています。園庭も乳児には十分な広さがあり、遊具や砂場で遊んでいます。また隣接する公園が緑豊かで一面に草が生えていて、思い切り駆け回ることができ、気持ちよく、どの年齢の子どもたちにも楽しめる場となっています。 おおむね職員は優しく、温かい態度や言葉遣い等で子どもに接していますが、まれに語気強く、厳しい言葉であったり、腕をつかむ等不適切と思われる職員の姿が見られました。これには職員間でも気づきがあり、研修をして改善している現状にあります。 		


[生活]

評価分類Ⅱ－1 保育内容 [生活]	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分で考えて食べることができるよう、配膳後に減らすことができます。残さず食べることを強要しないことを保育士間で共有しています。 4歳児、5歳児クラスはお当番がスマックを着て、配膳しています。また、5歳児のお泊り保育では買い物から皮むき、切った後、透明の鍋を使って調理の過程が見える体験をしました。 離乳食の前期・中期・後期で食器は色わけし、スプーンも使い分けしています。が、1歳児クラスも5歳児クラスも同じ大きさの食器を使用しています。今後の課題になっています。 栄養士や調理担当者が、ほぼ毎日各クラスを訪れ、実際に食べている様子を見たり、子どもの声を聞いたりしています。 眠れない子どもに午睡を強要することはありません。布団の上で静かに過ごせるように配慮しています。 乳児はうつ伏せにならないよう、また横向きにならないよう、体の向きに気をつけ呼吸チェックを行い、チェックした人がわかるように記入しています。 排泄は個人差を尊重して、一人一人に合わせた対応をしています。 トイレトレーニングは家庭でまず始めてもらうため、トイレトレーニング表を配布しています。その状況に応じて個別に対応しています。職員間で共通の理解をもつようクラス会議、乳児会議などで確認しています。 		


[健康管理]


評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは毎朝検温してから登園し、その日の健康状態（咳・鼻水など）を連絡帳に記載しています。またクラスの状況が一目でわかるようにクラスの一覧表もあります。看護師が各クラスを回り、健康状態の把握に努めています。 年に２回の健康診断・１回の歯科健診の結果は健康台帳に記載し、その結果は当日に書面で保護者に知らせています。 年齢に応じて歯磨き指導をし、２歳児までは仕上げ磨きをしています。看護師が年に一度、子どもたちが興味をもつように歯磨き指導しています。 感染症への対応のマニュアルがあり、職員には周知しています。保護者には感染症についての基礎知識や発症後の登園基準を知らせたり、保健だよりにて感染症の症状や予防、対応について、わかりやすく説明しています。 感染症が発症した場合は、全クラスの状況をボードに記載し、掲示しています。また、該当クラスにも掲示しています。 		

[衛生管理]


評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> 衛生に関するマニュアルはありますが、まだできたばかりで不十分なところがあります。 マニュアルに沿って清掃されています。しかし、衛生管理について職員間のばらつきが見られますので、共有することが望まれます。 		

[安全管理]

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> 保育室の棚や備品などは転倒防止策が取られ、子どもたちは各自の椅子に防災頭巾を用意しています。また、避難リュック等はすぐにわかる場所に置いてあり、0～1歳児はプーティー(避難用の簡易靴)、2～5歳児は避難靴を人数分準備しています。 安全に関するマニュアルは緊急時、不審者侵入、事故(ケガ)対応、園外保育中の事故など、それぞれの場合を想定した対応が記載されており、全職員に周知されています。 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、記録しています。また、翌朝の登園時にその後の様子を担任は聞いて確認しています。 通用門は施錠されており、保護者にはお迎えカードをつけてもらうようにしていますが、保護者アンケートからは出入りについて不安の声も出ています。そのため、今後の検討が望まれます。 		


評価分類Ⅱ－3 人権の尊重	評価結果	
	B	


- 子どもに対して威圧的な言葉遣いや無視が行われないように、職員間で話し合わせ、共通の課題としていますが、まだ取り組みは十分ではなく、保育士によっては威圧的な言葉遣いや態度を取る姿が見られます。
- 子どもに分かりやすい言葉を選び、おおむね、穏やかに話しかけ、せかしたり、強制したりしないように気をつけています。が、場面によっては徹底されていません。
- 必要に応じて、ホールやプレイルーム等誰もいない部屋を使って、1対1で話し合ったりすることができます。また、保護者からの相談がある時はプライバシーを守る場所を用意することができます。
- 職員会議で個人情報の取り扱いや守秘義務について話し合っています。退職時には誓約書に署名していますが、今後は入職時に誓約書に署名することが望ましいと思われまます。
- 遊びや行事の役割は子どもたちの希望で決めており、持ち物や服装なども性別による区別はしていません。また職員は父母の役割を固定的にとらえるような話し方や表現をしないように職員は気をつけています。

評価分類Ⅱ－4 保護者との交流・連携	評価結果	
	A	


- 連絡ノートには体温や健康状態、お迎えの時間、家庭での様子、園での様子など毎日きめ細かく情報交換しています。が、保護者アンケートから、具体的な個人の様子を知りたいとの声もあります。さらなる工夫が望まれます。
- 乳幼児ともに6月に個人面談の期間を設けていますが、強制ではなく、希望制になっています。5歳児は別途卒園前に個人面談があります。またいつでも希望すれば面談はできる体制にあります。
- 保護者からの相談は事務所棟にある相談室を使用し、回りの目を気にせずに話せるようになっていきます。また、相談者の意向や内容によって、担任、主任、園長、看護師、栄養士など適切に対応できるようになっています。
- 各クラスにはホワイトボードがあり、その日の保育の様子を掲示しています。また、制作などの過程を写真入りで説明して作品の横に掲示したり、保育の様子を写真を掲示したりしています。
- 保育参観を9月の土曜日に半日、保育参加は期間を1週間設けて保護者が参加しやすいように配慮しています。この期間でなくても希望があれば受け入れる用意はあります。
- 保護者会には事務所棟の会議室を提供しています。そこは話し合いに使われるだけでなく、バザーなどの準備のための備品も保管することができます。
- 保護者会主催の夏祭りや草むしり、茶話会などには、職員も参加して交流し、担当職員を中心に常にコミュニケーションを取っています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・作品展やバザーで地域住民が参加できる場面はありますが、子育て支援ニーズを把握できるような積極的な交流はありません。施設に対する要望を把握するような具体策もこれからの課題となっています。 ・鶴見区の主催する子育て支援事業や「幼・保・小」の教育交流研究会に参加しています。 ・一時保育は毎日利用者があり、リフレッシュや緊急時の受け入れも行っており、月に2回園庭開放も行っていますが、子育てニーズについて職員間で話し合うまでにはいたっていません。今後の課題となっています。 		

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果	
	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・育児支援に関する情報は横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」に載せたり、園舎外の掲示板に掲示したりしています。 ・入園希望者の見学会は隔週に行われており、月に2回の園庭開放の折にも相談できるようになっています。 ・必要な関係機関、医療機関、療育センターなどの相談機関とは園長が窓口になり、連携が取れており、職員は情報を共有しています。 		


評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	評価結果	
	B	

- ・夏祭りや作品展に地域住民が気軽に参加できるようにしています。
- ・近隣の大学の学生や、聴覚障がいの方に定期的に手話を教えてもらうなど交流があります。
- ・小学校2年生の生活科や中学校の職業体験学習を受け入れています。5歳児が小学校を訪問して交流も行っています。
- ・天気の良い日には散歩に行き、挨拶を交わすなどしています。地域には商店街などありませんが、お泊り保育の時にはスーパーに買い物に行きました。
- ・小学校で夏に行われる盆踊りには、お泊り保育の5歳児が参加しています。


評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供	評価結果	
	A	

- ・保育園のサービス内容などの情報をホームページやパンフレットで地域や関係機関に情報提供しています。
- ・横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」や、横浜の女性向けサイトに保育園の情報を提供しています。また、鶴見区の子育て支援拠点「わっくんひろば」でも保育園の情報が掲示されています。
- ・保育園の基本方針や利用条件・サービス内容等が記載されたパンフレットに基づいて常時説明しています。
- ・第1・第3水曜日に園長が担当する見学会をしています。この情報は広報紙などに記載されています。


評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ	評価結果	
	B	

- ・ボランティアの受け入れマニュアルがあります。受け入れにあたっては、職員間で話し合い、基本的な考え方・方針を理解し、共有しています。
- ・聴覚障がいの方や近隣の大学の学生が手話を教えに来てくれます。5歳児は生活発表会で手話の歌を披露し、参加者を感動させています。
- ・実習生受け入れのマニュアルがあります。そこには心構えや実習に対するアドバイス、守秘義務について記載されています。
- ・受け入れにあたっては事前に職員や利用者に説明しています。
- ・効果的な実習が行われるよう、学校側とも話し合い、プログラムを立案しています。また、日々の振り返りをその日の担当保育士とするほかに実習の最後には園長や主任も出席して反省会をもっていきます。


評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類 V-1 職員の人材育成	評価結果	
	A	

- 園長は保育所運営に十分な人材構成であるかを常にチェックし、必要な人材を確保しています。人材確保のため、柔軟な勤務時間の設定、非常勤職員の正規職員化、住居費の補助など、働き続けられる環境作りに努めています。
- 全職員が、目標記入シートを用い、施設全体の目標、クラスの目標、個人の目標を設定し、自己総括で達成度を評価しています。最低年1回は園長が面談を行い、前年度の振り返りと目標設定をしています。ただし、園としての人材育成計画の策定は今後の課題となっています。
- アレルギー、衛生管理、外部講師によるリトミックなどの内部研修(キャンパス研修)を毎月実施しています。保育士は、区や市の研修に積極的に参加しています。また、法人の経験や習熟度別、職種別の研修があり、必要な職員が参加しています。研修に参加した職員は研修報告書を提出し、内部研修で報告しています。
- クラスは常勤職員と非常勤職員が組み合わせるように配置しています。業務に支障がない限り、非常勤職員も園内研修に参加することができます。非常勤職員の取りまとめは主任で、常にコミュニケーションを図っています。クラス内の業務は、クラスリーダーが指導しています。


評価分類 V-2 職員の技術の向上	評価結果	
	B	


- 年1回、独自の様式を用い、全職員が自己評価を実施しています。職員の自己評価をまとめて集計し、結果についてクラス会議で話し合っています。
- 他のクラス的环境設定を見てクラス会議で話し合い、良い事例を取り入れるなどの取り組みは実施していますが、園全体として一層のサービス向上を目指した会議や勉強会の実施は今後の課題となっています。
- 指導計画、日誌には自己評価の欄があり、定形化されています。自己評価は計画で意図した保育のねらいと関連づけて行われていて、その後の計画作成に反映されています。ただし、評価はねらいの達成度や子どもの活動とその結果が中心となっていて、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などについての記述は少なく、今後の指導上の課題となっています。
- 保育所の自己評価は保育士の自己評価をふまえて作成しています。また、年1回、職員対応、施設設備、子どもへの関わり、緊急時の対応等の項目について顧客満足度調査を行い、結果を集計しています。集計結果は入口と保育室前に掲示し保護者に公表しています。ただし、クラス会議で集計結果について話し合うのみで、自己評価の結果を職員会議で取り上げ、園全体として取り組むまでには至っていません。今後は、自己評価及び顧客満足度調査の集計結果をもとに、園としての課題を明らかにし、職員間で話し合い、改善に役立てることが期待されます。


評価分類 V-3 職員のモチベーションの維持	評価結果	
	B	

- 経験・能力や習熟度に応じた役割や期待水準などは文書化していません。職員が見通しを持って働けるよう、明文化することが期待されます。
- クラスの運営はクラスリーダーに委譲されています。クラスリーダーは現場の保育士の要望や提案などを吸い上げ、リーダー会議で話し合い、改善につなげています。また、誕生会の係、行事のリーダー、週ごとのクラスリーダーなど現場の職員に可能な限り権限を委譲しています。ただし、権限や責任の範囲が明確でなく、クラスや保育士によってばらつきが見られますので、明確化することが望まれます。
- 園長が最低年1回は全職員に対して個別の面談を実施し、要望や希望を聞き、満足度を把握しています。

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に配布しているマニュアルに「保育士としての心得」及び「保育士ルール」を記載し、守るべき法・規範・倫理等を明文化しています。また服務規程にも明文化しています。 ・他施設での不正行為は書面にて回覧し、啓発しています。職員の意識を向上するためにも、今後は回覧だけでなく、職員会議や園内研修でも取り上げることが望まれます。 ・経営や運営状況などの情報の公開は行っていません。 ・ゴミの減量化、リサイクルのための取り組みとして、廃材を手作りおもちゃや製作の素材として用いています。まめに電気を消すなど省エネルギーに努めています。緑化の推進として、庭に花やサツマイモなどを栽培しています。ただし、環境配慮についての園としての考え方を明文化するまでには至っていません。 		

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・基本方針を明文化した「末吉いづみマニュアル」を全職員に配布しています。また、保育室に理念・基本方針を掲示しています。園長は年1回全体職員会議で説明しています。また、キャンパス研修(園内研修)で唱和しています。 ・新人職員に対しては、法人研修で周知しています。ただし、非常勤職員や派遣職員に対しては掲示物などで周知を図ってはいますが、改めて説明したり、確認したりする機会は設けていません。今後は入職時に園が目指す方向について説明することが期待されます。 ・園長、主任は指導計画や日誌を通して、職員が理念や基本方針を理解できているかチェックしています。また、気になる事例があった場合には声をかけ指導をしています。 ・毎月の保護者会には園長が出席しています。定員増、園舎改修、新体制への移行などの重要な意思決定については、園長はリーダー会議などで職員に説明するとともに、保護者会で保護者に十分に説明しています。 ・重要な意思決定にあたり、異なる部門の職員による検討チームを編成した事例は今のところありません。 ・計画的に主任を育成するためのプログラムは作成されていません。 ・主任はフリーとして各クラスを回り、個々の職員の業務状況を把握し、能力や経験に合わせた指導を行っています。また、保育士と積極的にコミュニケーションをとり、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。 		

評価分類VI-3 効率的な運営	評価結果	
	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、鶴見区園長会、横浜市立保育園園長会、法人の保育ブロック会議、関東施設長会などに出席し事業運営に影響がある情報を収集しています。収集した情報は法人の保育園園長会などで議論し、重点改善課題として設定しています。重要な改善課題については、リーダー会議や職員会議で職員に報告しています。 ・年度ごとの事業計画を作成しています。中長期的な方向性については施設長会議で理事長が「思い」を話していますが、中長期計画として文書化するまでには至っていません。 ・法人の理事会で、運営やサービスプロセスの新たな仕組みについて常に検討しています。 ・法人としての研修計画は作成していますが、次代の保育園の幹部職員についての育成計画は文書化されていません。 		

利用者家族アンケート分析

【実施概要】

- 実施期間：平成 27 年 6 月 1 日～平成 27 年 6 月 15 日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率：配付 162 件、回収 89 件、回収率 54.9%

★文中の「満足」「満足度」は、「満足と「どちらかといえば満足」の回答を合計した結果、「不満」は「不満」と「どちらかといえば不満」の回答を合計した結果です。

【結果の特徴】

- ・回収率が 54.9%と低くなっているため、必ずしもすべての保護者の意見を集約する結果とはなっていません。
- ・園の保育目標や保育方針については、「よく知っている」(3.4%)と「まあ知っている」(64.0%)と答えた保護者の割合は合わせて 67.4%、「どちらとも言えない」と答えた保護者は 24.7%です。「よく知っている」「まあ知っている」の中で、「賛同できる」と「まあ賛同できる」を合わせて 96.7%となっています。
- ・項目ごとの設問の中で比較的満足度が高いのは、
「給食の献立について」「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会について」、「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の 94.4%、
「園のおもちゃや教材について」「遊びを通じた友達や保育者との関わり」「園便りや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「お子さんが大切にされているか」の 93.2%です。
- ・不満度が高いのは、
「外部の不審者侵入を防ぐ対策について」の 22.4%です。
- ・「アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮について」は 75.2%と満足度が低いですが、「その他」(15.7%)と「無回答」(6.8%)を合わせて 22.5%となっていて、自由記述欄には「分かりません」という記述が多数あります。
- ・総合的な満足度は「満足」が 50.6%「どちらかと言えば満足」が 44.9%、「どちらかと言えば不満」が 4.5%で、高い満足度となっています。
- ・自由意見欄には、「安心して預けられる」「隣に広くて安全な公園があり、のびのびと遊んでいる」「子どもが楽しく通園している」などの満足の声が複数あります。一方、「人数が多いので仕方がないが、一人一人に目を向けてほしい」「先生の入れ替えが多い」「もっと気軽に話せるようにしてほしい」「雨天時の出入り口を工夫してほしい」など様々な意見が寄せられています。

末吉いづみ保育園 利用者家族アンケート集計結果

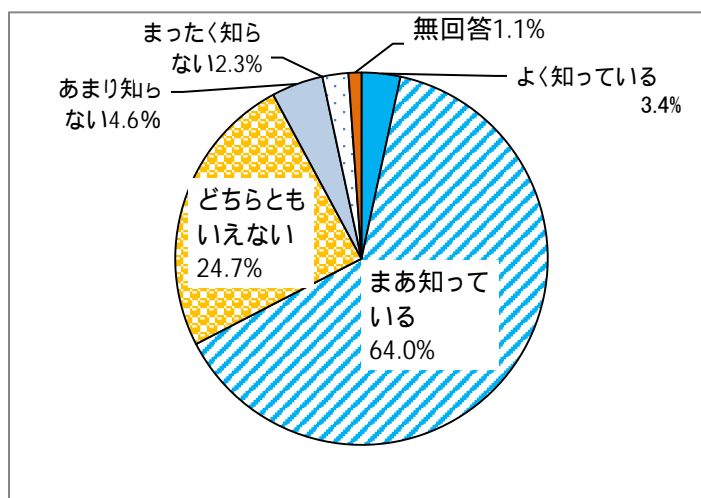
実施期間	平成27年6月1日～ 6月15日
調査対象	利用者家族
配布世帯数	162件
有効回答数	89件
回収率	54.9%

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答	(人)
お子さんのクラス	15	12	18	14	16	13	1	

2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

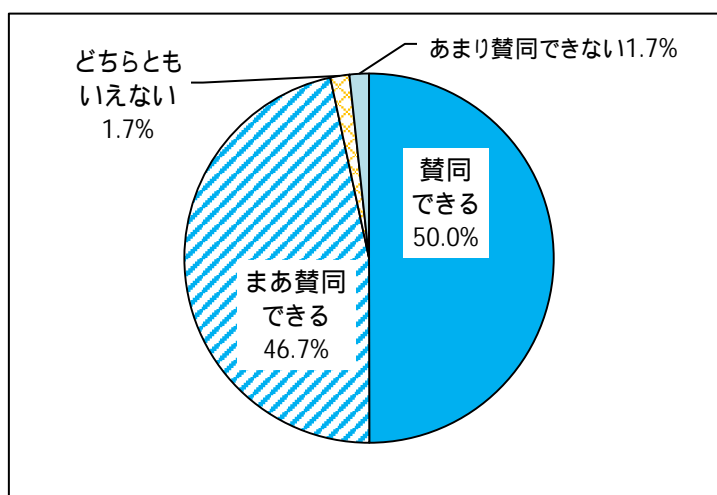
問1: 保育園の基本理念や基本方針について

	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	3.4	64.0	24.7	4.5	2.3	1.1	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	(%)
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	50.0	46.7	1.7	1.7	0.0	0.0	



問2: 入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	37.1	40.4	2.3	1.1	18.0	1.1	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	30.3	55.1	4.5	2.2	7.9	0.0	
園の目標や方針についての説明には	25.8	64.0	6.7	0.0	2.2	1.1	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	38.2	47.2	9.0	3.4	2.3	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	32.6	53.9	11.2	0.0	2.2	0.0	
費用やきまりに関する説明については	34.8	51.7	6.7	4.5	2.2	0.0	

問3: 保育園に関する年間計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	36.0	56.2	6.7	0.0	0.0	1.1	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	25.8	58.4	4.5	3.4	5.6	2.2	

問4: 日常の保育内容について
「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	57.3	33.7	5.6	1.1	2.2	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	57.3	34.8	2.3	2.3	3.4	0.0	
園のおもちゃや教材については	50.5	42.7	2.2	0.0	3.4	1.1	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	48.3	34.8	9.0	2.2	4.5	1.1	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	47.2	46.1	1.1	1.1	4.5	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	44.9	40.4	6.7	0.0	6.7	1.1	

「生活」について

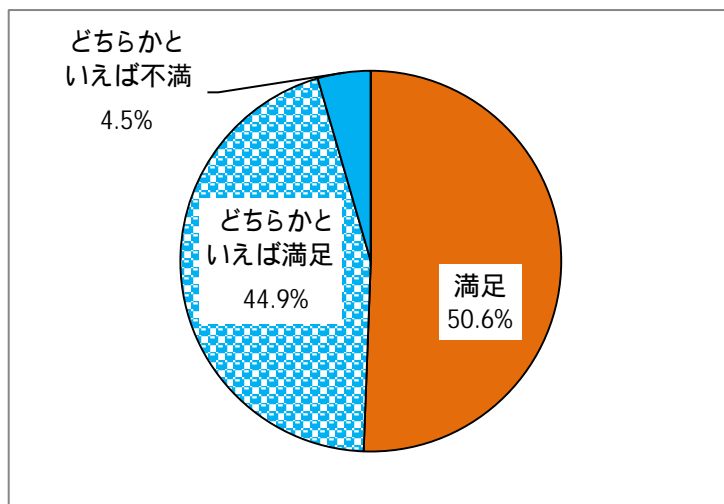
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	60.7	33.7	2.2	0.0	2.2	1.1	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	64.0	28.1	3.4	0.0	3.4	1.1	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	64.0	28.1	1.1	1.1	3.4	2.2	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	52.8	36.0	6.7	1.1	1.1	2.2	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	51.7	34.8	2.2	1.1	6.7	3.4	
お子さんの体調への気配りについては	55.1	37.1	6.7	1.1	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	49.4	34.8	9.0	4.5	1.1	1.1	

問5: 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	44.9	44.9	5.6	1.1	2.2	1.1	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	44.9	46.1	7.9	1.1	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	38.2	37.1	15.7	6.7	1.1	1.1	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	46.1	41.6	11.2	0.0	0.0	1.1	

問6: 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	48.3	46.1	2.2	1.1	2.2	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	56.2	37.1	6.7	0.0	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53.9	39.3	4.5	1.1	1.1	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	37.1	47.2	10.1	4.5	1.1	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	38.2	49.4	10.1	2.2	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	37.1	46.1	10.1	3.4	1.1	2.2	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	41.6	41.6	1.1	5.6	9.0	1.1	

問7: 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	61.8	31.5	3.4	1.1	2.2	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	60.7	33.7	4.5	0.0	0.0	1.1	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	37.0	38.2	2.2	0.0	15.7	6.7	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	49.4	37.1	6.7	4.5	1.1	1.1	
意見や要望への対応については	40.4	47.2	5.6	3.4	1.1	2.2	

問8: 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	50.6	44.9	4.5	0.0	0.0	





利用者本人調査

【実施概要】

■実施日時：平成27年 9月15日、 9月17日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施。

■0 歳児

それぞれの椅子に座り「おはよう」の挨拶の後に名前を呼んでもらって、はい、と手をあげたり、頭を下げたり、どの子どもにもここにしています。お茶を飲んだ後、遊びのスペースに高月齢児と低月齢児に分かれます。ミルクを飲ませてもらったり、おむつ替えをしてもらった後は、保育士が歌う声に合わせてハイハイをしたり、出されたおもちゃで遊びます。みんなでCDに合わせて体操です。子どもたちは嬉しそうに手足を動かしたり、声をあげています。体操の後は「お散歩に行こうね」と、室内に移動車を入れ、乗り込み、帽子をかぶります。おんぶ紐でおんぶされている子どももいます。下で散歩車2台に乗り換えます。低月齢児はバスや救急車を見に行くコースに、靴を履いてヨチヨチ歩くこともできる高月齢児は隣にある公園に向かいます。ヨチヨチ歩く子どもも長くは歩けないので、時々散歩車に乗る子どもと交代しながら行きます。公園に着くと先に遊んでいた幼児クラスの子もたちが駆け寄ってきます。「〇〇ちゃんは何？」と弟や妹を探しに来たり、「あんよ、上手ね～」と一緒にゆっくり歩いてくれたりします。眠くなって散歩車の中で座り込んでしまう子どもは抱っこしてもらいます。ゆっくりと風を感じたり、草の匂いを感じた後は部屋に戻ります。手を洗い、お茶を飲み、遊んで待っている間に給食の準備ができました。それぞれの食事の形態に合わせて食事が出ています。手を合わせて「いただきます」をしたら、スプーンを自分で持って食べたり、食べさせてもらったり、穏やかな雰囲気の中で食事が進みます。

■0・1 歳児

大きなマークのついた椅子に座って朝の会をした後はおやつの牛乳を飲みます。ごちそうさまの後は遊びのスペースに移り、ブロックや車で遊んでいる間に順番におむつ替えをします。「お外に行こうね」とおもちゃを片づけたら、「壁さん、ぺったんしようね」と、そこで手遊びや絵本を読んでもらい落ち着きます。歩ける子どもはゆっくり手すりにつかまりながら、階段を下り、靴を履き、隣の公園までお散歩に行きます。みんな並んで仲良く歩いて行きます。先に着いていた幼児さんが、「〇〇ちゃ～ん」と手を振ってくれます。木の陰に一旦みんなで座ります。兄や姉が誘いに来て、手を引かれて歩いていく姿もあります。保育士の吹くシャボン玉を追いかけて、手でつかもうとしたり、草を掴んだり、思い思いに動き始めます。遠くまで行くことはなく、木の近くで過ごしています。持参したお茶を飲んでから、帰ります。部屋に戻ったら一人ずつ手を洗い、おもちゃで遊びます。少し疲れたのかゴロゴロしている子どももいます。給食の準備ができました。テーブルに着き、エプロンをつけ、「いただきます」をした後、それぞれの前に食事を置いてもらいます。「今日はスプーンで食べます」とスプーンの持ち方を各テーブルに回って見せます。それぞれスプーンを使って上手に食べます。食べ終わったら、その場で歯磨きをし、手洗い場で口をゆすぎます。おむつを替えてもらい、服を着替え、絵本を読み聞かせてもらって午睡に入ります。

■1 歳児

保育士の弾く電子ピアノに合わせて子どもたちは身体を揺らしたり、手をたたきます。みんな楽しそうな表情、しぐさです。名前を呼ばれ、返事ができた子どもは保育士全員に「上手！」と褒められます。牛乳を飲んだ後、遊びのスペースに移動したら、そこにはブロックと車が用意されていて、好きな物で遊び始めます。保育士は遊んでいる横でおむつを替えていきます。子どもたちは一人が笑うとみんなで笑い、なごやかに遊びます。おもちゃの取り合いになった場合には『貸してね』と言おうね」「順番だよ」と保育士は仲立ちをします。そのかわらで、保育士に呼ばれた子どもから大きさの違う2種類のビーズをスプーンですくってお皿に入れる練習をします。雨で外に出られないため、室内で過ごすことに飽きた子ども3人を保育士1人が連れて園内散歩に出かけ気分転換させます。ブロックや車を片付け、きりんの着ぐるみやチャイナ服、布、袋ものを出して、変身ごっこです。みんなでなりきって遊びます。袋に物を入れて忙しそうに運ぶ子どももいます。食事の時間になりました。歌を歌って「いただきます」をしたら、今日のメニューを聞きます。スプーンやフォークを使って上手に食べます。「上手だね～」など声をかけてもらい、手伝ってもらって、残さず食べます。自分たちで歯磨きした後、保育士に仕上げ磨きをしてもらいます。布団はすでに敷いてあり、絵本を読んでおむつ替えの順番を待ちます。自分でできる子どもはおむつを脱いだり、履いたりします。服を着替えさせてもらった子どもから布団に入ります。

■2 歳児

朝の会では電子ピアノに合わせ、大きな声で歌ったり、振りをつけたり、元気いっぱいです。園歌の時間が一番元気で楽しそうです。名前を呼ばれたら、手を上げて返事します。手遊びをし、おやつを牛乳を飲んだ後にトイレに行きます。子どもたちはパンツや紙パンツを持って入り口付近に並んで待っています。順番にトイレに行っている間に、パンツや紙パンツは並べて置かれているので、手を洗って出てきたら自分で履いて部屋に戻ります。「雨で外に出られないため、制作をします」全員がテーブルにつきます。画用紙に以前作った野菜を貼ります。できた子どもは普段部屋にはないブロックや木製の大きなおままごと道具と手作り家具で遊びます。おうちごっこやお店やさんごっこがにぎやかに始まり、みんな穏やかに遊びます。部屋を片付け、運動会のダンスの練習をみんなでします。楽しそうにダンスをしています。最後のポーズでは思わず笑顔になる可愛いポーズで笑い声が溢れます。2回踊って終了です。トイレに行き、着替えます。手を洗い、着席して「いただきます」をしてからエプロンを配ります。最初は全員お箸を使います。うまく使えない子どもには途中からスプーンを渡し、食べます。眠くなって食べられなくなっている子どももいます。少しその場で寝かせてから食事を再開しています。ほとんどの子どもが自分で残さず食べていましたが、手伝ってもらって食べる子どももいます。終わった子どもは食器を自分で下げ、ごちそうさまをしてから、歯磨きをします。保育士は仕上げ磨きをします。終わった子どもから静かに布団に入ります。

■3 歳児

朝、登園途中でみつけたカタツムリを、お母さんが外のテラスのプランターの枝豆の葉に置いていってくれました。子どもたちは興味深々で眺めています。そばの保育士も子どもたちの気づきに共感して言葉かけをしています。片付けの後、電子ピアノの前に整列します。みんなで元気よく歌を歌い、挨拶をします。お当番さんが二人、前に出て、バッジをつけてもらいます。「防災頭巾をつけます」で子どもたちはロッカーから取り出し、椅子の背にかぶせます。トイレに並んで行き、終わった子どもはみんなが出てくるのを待って、一緒に部屋に戻ります。各テーブルに新聞紙が敷かれその上に糊が入った小さなカップが置いてあります。「運動会の万国旗の制作の続きをします」「桃はできたから、今日は葉っぱと星をつけます」「手はおひざで待っていてください」みんな静かに配られるのを待ちます。子どもたちは「どこに貼るの？」と聞いたり、「こっち？」と聞いたりします。保育士は糊の付け方や貼り方などテーブルを回って丁寧に声をかけます。終わった子どもから手を洗います。片方の部屋にはままごとを運んでマットを敷き、テーブルの脚をたたんでセットし、もう片方の部屋にはテーブルをくっつけてブロック、床には大きなブロックをセットします。どちらで遊んでもいいと言われ、歓声が上がります。ままごとのコーナーでは「食べ放題になっています」や「デリバリーに行ってきます」など楽しい会話が聞かれました。ブロックのコーナーでも3人でひとつの大きな物を作ったり、それぞれが作った物を持ってごっこ遊びをしたり、ケンカもなく、落ち着いてとてもよく遊んでいます。

■4 歳児

朝の会では歌、挨拶の後、お当番2人が前に出て、名前を言ったり、「朝ごはんは何でしたか？」などのインタビューを受けます。最後にみんなは「お願いします」と言い、「頑張ります」と答えます。みんなで一緒にトイレに行きます。上履きは揃えて脱ぎ、トイレのスリッパも揃えて出てきます。今日は1組と2組で並んで手をつなぎ、隣の公園に行きます。アニメの主題歌を子どもたちから元気に歌いだし楽しそうに歩いていきました。公園では大きな木の下に水筒を置き、何時まで遊ぶか、後でかけっこの練習をすること、水分補給することを聞いてから遊び始めます。虫図鑑・植物図鑑・虫眼鏡は、自由に使えるようにしています。外周のアスファルトの道を保育士と一緒にマラソンをする子どもたちもいます。先に到着したら、「頑張れ〜！」など声をかけています。鬼ごっこしたり、お相撲のようにじゃれあったり、身体を使ってよく遊んでいます。草の上なので転んでも痛くありません。虫眼鏡でアリを見たり、バッタやトンボを追いかける子どももいました。また別のところではお母さんごっこも始まり、草や草の実をおかずに見立てて楽しそうです。パーティーにまで発展していました。保育士の声かけで集まり、運動会の入場の練習をします。かけっこの練習もしました。みんな思い切り走っていました。水筒のお茶を飲んでから帰ります。帰ったら手を洗い、自分たちでロッカーのかごの中から洋服を出して着替えます。脱いだ服はそれぞれの袋に入れます。カーテンを引いて、テーブルをセットした落ち着いた雰囲気の中で、給食の時間になりました。

■5 歳児

鼓笛の楽器をそれぞれ持って整列します。「大太鼓が重い」と言う子どもには保育士が手伝っていますが、他の子どもは自分たちで持ちます。公園に着いたら、保育士が「鼓笛と組体操の練習、リレーをします。カッコよくできたらそのあと遊べます」と説明します。まず、入場行進、鼓笛隊の練習と続きます。広い場所でお互いの音が聞こえにくいせいか、まだあまり音は揃っていませんが、注意することはなく、隊列の位置などを確認しています。集中できない子どもには穏やかに接しています。次は徒競走です。4～5人ずつ走ります。終わった子どもたちは「頑張れ～」と応援します。裸足になって組体操の練習になりました。1人で、2人で、3人で、と次々とポーズを決めます。1列になってウェーブや、クラスごとにピラミッドも練習をしました。保育士はできると褒め、手をたたいたりして盛り上げています。45分ほど練習した後、自由に遊ぶことになりました。鬼ごっこ、かけっこ、バツタ探し、トンボを追いかけたり、組体操の復習をする子ども、水筒のお茶を飲みながら「乾杯！」と言い合っておしゃべりしている子どもなど皆仲良く、遊んでいます。木の下に移動してからは枝にぶら下がり遊んだり、木の根っこを伝わったり、土いじりしたりしています。転んだ子には「大丈夫～？」など声をかけています。最後にリレーの練習です。組分けをしてゼッケンを配ります。勝ち負けが出て、悔しがる子どもたちに「リレーは勝ち負けが出るけれど、みんなの力に差はないんだよ」と話し、泣いている子どもには保育士が寄り添っています。園に帰ったら、着替え、手洗いをして給食です。当番が前で配膳します。テーブルごとに子どもたちは取りに行きます。当番が給食のメニューの中の食材をボードに貼り、それぞれが何の栄養素になるのか、その働きはどのようなものかをみんなで言います。「いただきます」をした後で給食を減らしたい子どもは出て行き、減らすことができますが、保育士は少しは食べるように指導しています。なごやかに食事が進みます。



事業者コメント

第三者評価を受審して

お蔭様で平成 18 年 4 月に開園をさせて頂き、10 年目を迎えることができました。
これは、子ども達・保護者の皆様・近隣の皆様・職員の皆様のお蔭と思い感謝しております。

日々、一生懸命保育に臨んでおりますが、もう一度保育を顧みて子供たちのためにより良い保育園になるよう、保育の見直しをし、方法を得るきっかけを頂こうと考えながら今回の第三者評価に取り組みました。

第三者評価を受けて、「発達に合った保育をしていこう。」「細かいところがまだまだできていないと思う。」「地域との関わりが、密になるよう話し合っ改善できるといい。」「わかっていなければいけないところを知ることができた。」「価値観が違っていたり、意識が違っていることがわかり、同じ方向を向いて保育ができるようにしていきたい。」「できていないところがわかり、見直しをするきっかけになった。」「まだまだ直さなければいけないところもあるが、全体の意識を統一することの重要性がわかった。」などの声が上がりました。

改めて、“末吉いづみ保育園にきて良かった”と心より思ってもらえるよう、園を良くしていくことを引き続き尽力いたす所存です。

今後も恵まれた環境である、隣接する広い下末吉公園を使わせて頂きながら、子ども達のがのびのびと遊べる・また自然環境を生かして一人一人の個性を大切にしつつ、集団という社会性を養える保育園として、また子ども達の主体性を大切に創造性豊かな子どもに育つような保育を目指していきます。

そのためには、一人一人の職員の意識・技術向上ができ、質の高い保育を提供し、今まで以上に職員同士のコミュニケーションを大切にして、子ども達の大切な命をお守りしてまいります。

お忙しい中、アンケートに答えて下さった保護者の皆様、また、保育の質を上げる機会を作って下さり、本園の良さを的確に拾い上げ、また指摘もして下さった 'よこはま地域福祉研究センター' の皆様、本当にありがとうございました。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室
TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118
<http://www.yresearch-center.jp>

